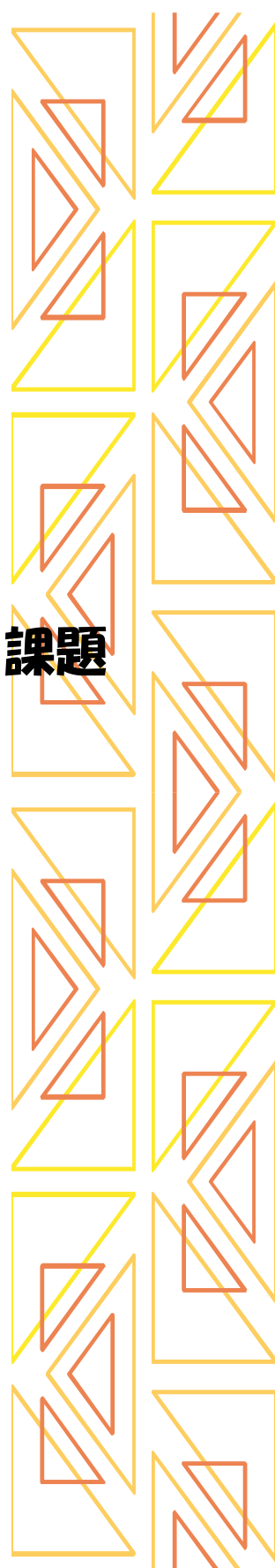


第2章 スポーツ環境の現状と課題



第2章：スポーツ環境の現状と課題

第1節 市民のスポーツ環境

1 スポーツ団体（市内の主な団体）

【名称：龍ヶ崎市体育協会】

■目的：市民スポーツの統一組織として、子どもから高齢者まで、誰もがスポーツに親しめる生涯スポーツ社会の実現に向けた事業を推進することを目的としています。

■団体数：19団体（平成24年3月末現在）

【名称：龍ヶ崎市スポーツ少年団本部】

■目的：スポーツ少年団相互の連絡調整を図り、心身共に健全な青少年を育成することを目的としています。

■団体数：29団体（平成24年3月末現在）

【名称：龍ヶ崎市レクリエーション協会】

■目的：各種レクリエーション^{※1}活動の普及と生活文化の向上を推進し、生涯にわたって健康にして明るく文化的なまちづくりに寄与することを目的としています。

■団体数：8団体（平成24年3月末現在）

2 地域スポーツクラブ^{※2}

市内には、活動種目をベースとする民間のスポーツクラブなどが多数存在します。また、単一種目型クラブと、多種目型クラブがあり、さらにいくつかの種目で年間を通じ活動する併行型と、シーズンごとに活動種目を選ぶシーズン型などが見られます。

3 その他

【名称：龍ヶ崎市スポーツ推進委員^{※3}】

■目的：スポーツ基本法に基づいて龍ヶ崎市教育委員会から委嘱される非常勤の公務員で、市民に対しスポーツの指導及び助言を行い、スポーツ活動促進のために組織の育成拡充を図り、行政機関等が行うスポーツに関する行事または事業に関し協力することが主な職務になります。

■人数：21人（平成24年3月末現在）

※1 レクリエーション………娯楽や休養、さらには自己実現を図るといった積極的な意味合いを持ち、囲碁や将棋のようなものから「スポーツ」まで幅広いものを指す。

※2 地域スポーツクラブ………地域住民等が自主的に組織するスポーツのサークル、クラブ、団体等の組織の総称。

※3 スポーツ推進委員………市町村の教育委員会が委嘱する非常勤職員で、スポーツ推進の目的のため住民に対しスポーツ実技等の指導、助言を行う。

第2節 スポーツ施設の利用状況

市内の公共スポーツ施設における、平成10年度～平成24年度の利用者実績の推移は、以下の通りとなっています。

利用者数（人）

施設名	平成10年度	平成15年度	平成20年度	平成24年度
小貝川市民運動公園 （野球場・多目的広場）	10,238	8,436	9,360	7,139
工業団地運動公園 （野球場）	11,361	12,872	19,892	10,584
高砂運動広場 （野球場）	6,662	9,647	8,507	5,408
北竜台公園 （野球場）	7,794	10,457	10,065	4,760
横田川運動公園 （サッカー場）	7,705	9,855	10,837	8,904
羽原川運動公園 （多目的広場）	3,567	4,547	1,574	735
若柴公園 （テニスコート）	22,367	18,679	12,883	10,455
城南スポーツ公園 （テニスコート）	16,672	15,049	8,905	7,967
高砂運動広場 （テニスコート）	13,797	10,215	8,912	—
高砂運動広場 （体育館）	11,186	11,044	13,003	0
大正堀川運動公園 （野球場・多目的広場）	—	7,213	5,600	3,946
大正堀川運動公園 （テニスコート）	—	6,598	3,775	2,762
龍ヶ岡公園 （テニスコート）	—	28,802	15,821	14,255
合 計	111,349	153,414	129,134	76,915

※高砂運動広場（テニスコート）は平成22年6月で廃止。

※高砂運動広場（体育館）は平成23年3月11日～平成25年4月30日まで震災の影響（災害復旧含む）により一時閉鎖期間あり。

【学校体育施設（夜間開放団体）】

利用者数（人）

	平成22年度	平成23年度	平成24年度
学校体育施設 （夜間開放団体）	121,432	128,436	107,213

【龍ヶ崎市総合体育館（たつのこアリーナ）】〔供用開始：平成14年6月30日〕
利用者数（人）

施設名	平成14年度	平成15年度	平成20年度	平成24年度
メインアリーナ	21,449	47,310	48,932	54,812
サブアリーナ	7,769	11,978	14,163	17,160
多目的室	5,406	9,833	6,889	8,765
トレーニング室	25,291	42,361	35,138	35,180
柔道場	6,853	9,945	14,714	11,774
剣道場	9,511	18,231	21,404	20,481
プール	63,861	79,780	75,145	74,633
合計	140,140	219,438	216,385	222,805

【龍ヶ崎市陸上競技場（たつのこフィールド）】〔供用開始：平成19年4月7日〕
利用者数（人）

利用内容	平成19年度	平成20年度	平成24年度
フィールド利用	19,358	24,422	48,054
観覧利用	16,741	14,981	17,602
合計	36,099	39,403	65,656

【龍ヶ崎市野球場（たつのこスタジアム）】〔供用開始：平成22年5月1日〕
利用者数（人）

利用内容	平成22年度	平成23年度	平成24年度
スタジアム利用 （観覧利用含む）	15,263	10,265	16,563

第3節 市民意識調査の結果

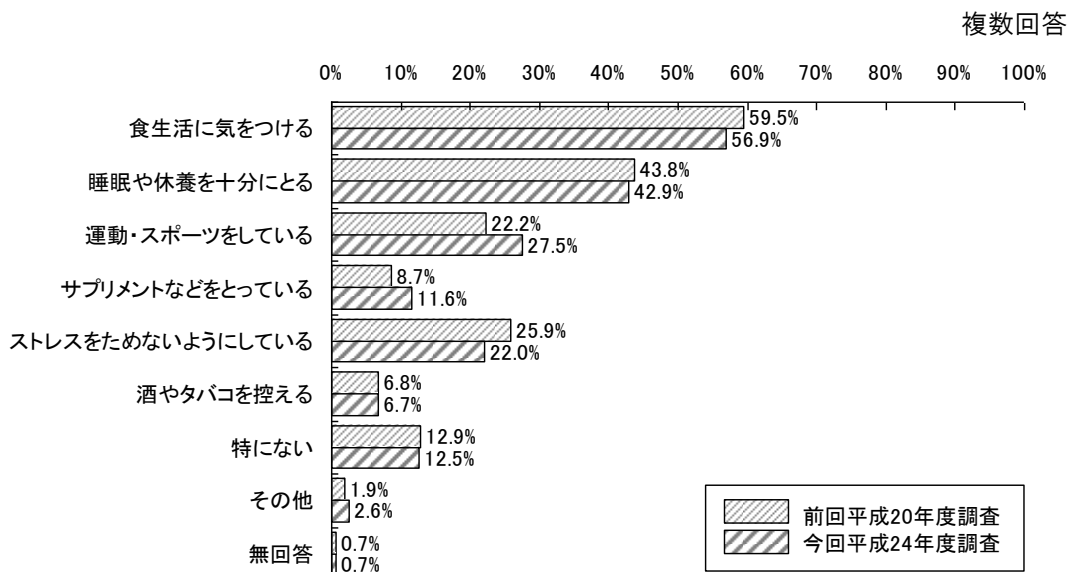
本計画（後期基本計画）の策定に向けて市民のスポーツに対する様々な意向を把握するため、平成24年11月から12月にかけて「市民意識調査（以下「アンケート調査」という。）」を実施しました。

この調査は、一般（16歳以上の男女：2,000人）及び小中学生（小学5年生：334人・中学2年生：191人）を対象にして、前回の調査結果（平成20年度）との比較ができるよう同じ設問で行っており、市民の皆さんの実態や意識の変化を確認しながら、前回の調査結果で明らかになった次の項目を改めて整理しています。

健康増進に向けた取り組み

健康や体力の維持増進のために心がけていることでは、「食生活に気をつける」が56.9%で最も多く、次いで「睡眠や休養を十分にとる」42.9%、「運動やスポーツをしている」27.5%、「ストレスをためないようにしている」22.0%の順となっています。また、前回調査（平成20年度）に比べて、「運動やスポーツをしている」で5.3ポイント、「サプリメントなどをとっている」で2.9ポイント増えている一方で、「ストレスをためないようにしている」で3.9ポイント、「食生活に気をつける」で2.6ポイント減っています。このことから、市民の健康に対する意識が高いことや、自由時間の過ごし方としてスポーツ活動を楽しんでいることが伺えます。

図表2-1：健康維持のために心がけていること（一般）



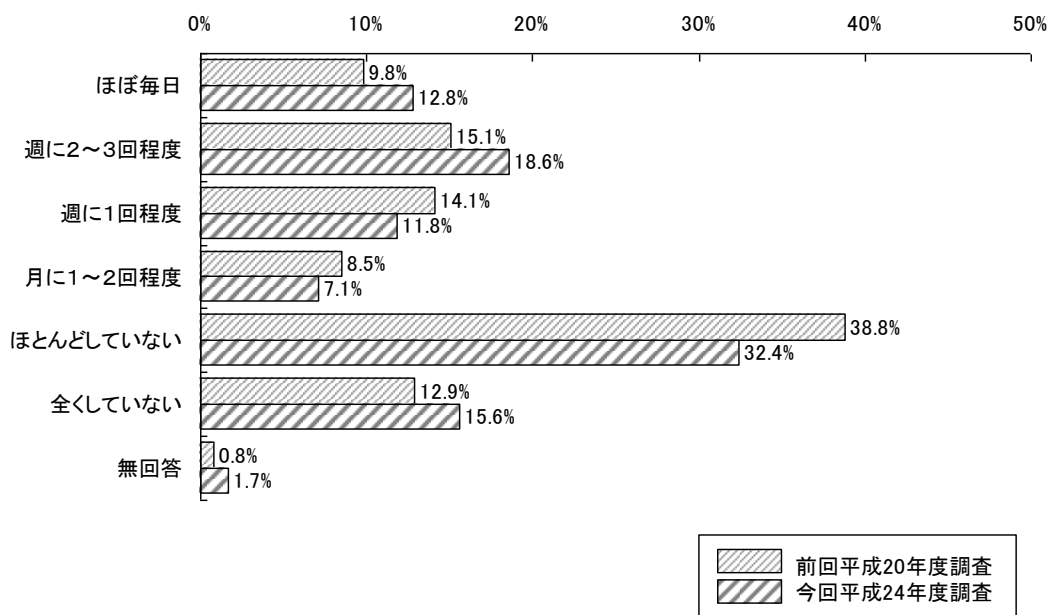
小中学生を除いたスポーツ実施率は低い

日頃、運動やスポーツ活動をする割合では、「ほとんどしていない」が32.4%で最も多く、次いで「週に2～3回程度」18.6%、「全くしていない」15.6%の順となっており、約5割の人が運動やスポーツ活動をほとんど行っていない状況となっています。なお、前回調査（平成20年度）に比べて、「週に2～3回程度」で3.5ポイント、「ほぼ毎日」で3.0ポイント、「全くしていない」で2.7ポイント増えている一方で「ほとんどしていない」で6.4ポイント、「週に1回程度」で2.3ポイント減っています。

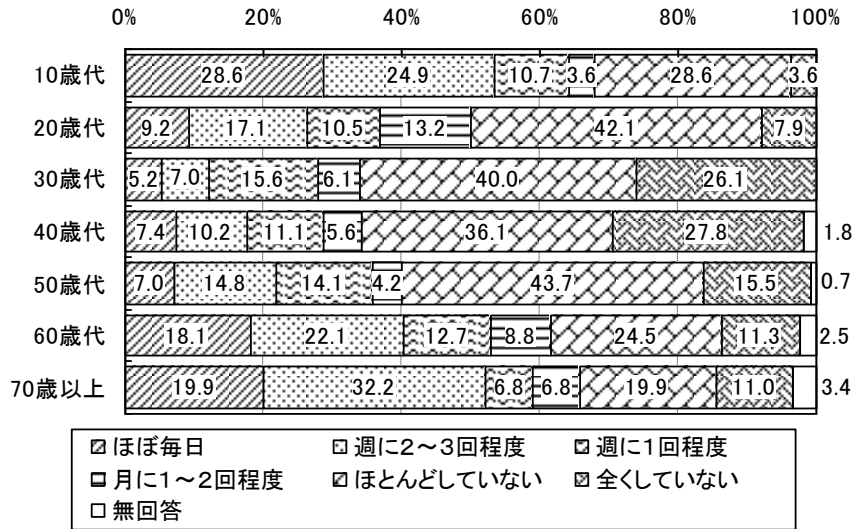
年代別にみると、週1回以上の運動やスポーツ活動を行う人は、60歳代で52.9%、70歳代では58.9%と、比較的時間に余裕を持っている年代のスポーツ実施率が高くなっています。また、小学生では「週3～4日くらい」が36.6%で最も多く、前回調査よりも7.5ポイント増えており、次いで前回調査で最も多かった「週1～2日くらい」が34.4%で8.8ポイント減っています。中学生では「週5～6日くらい」が65.9%で最も多く、前回調査よりも4.0ポイント増えており、次いで「毎日」が24.6%となっています。

市民のスポーツへの関心や意欲は高いものの、継続的な実施に至っては多忙によることが影響を与えていることが伺えます。

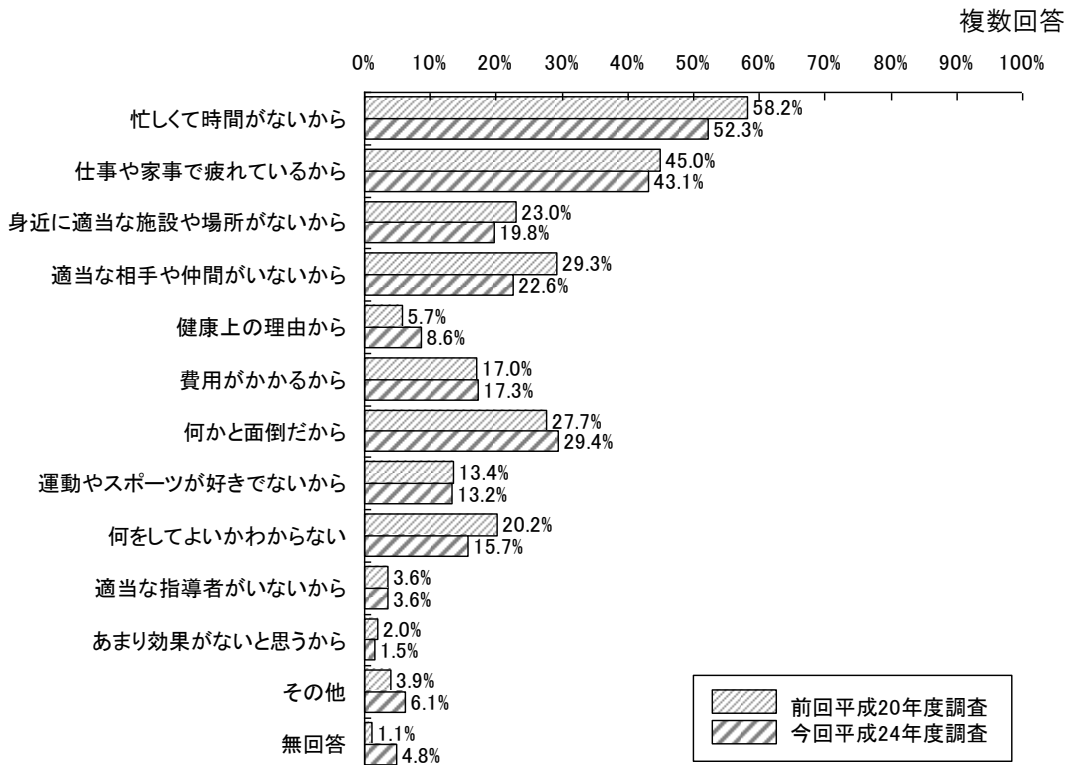
図表2-2：運動やスポーツ活動をする割合（一般）



■年代別のクロス集計

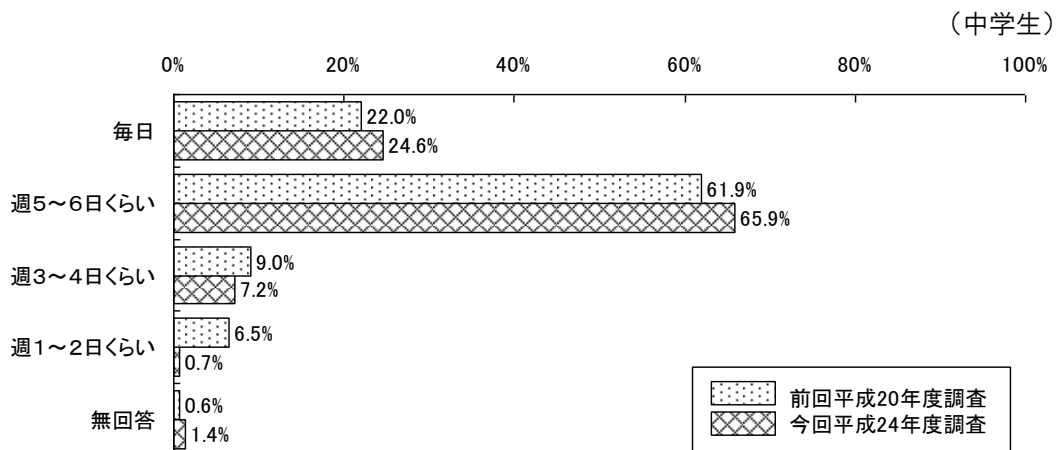
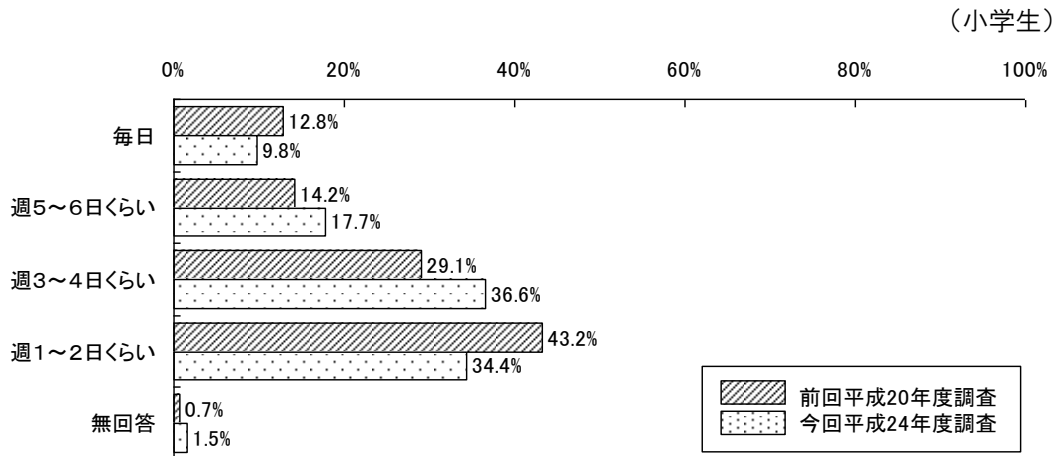


■運動やスポーツ活動をしらない理由



中学生は課外活動の影響が大きい

図表2-3：運動やスポーツ活動をする割合（小中学生）



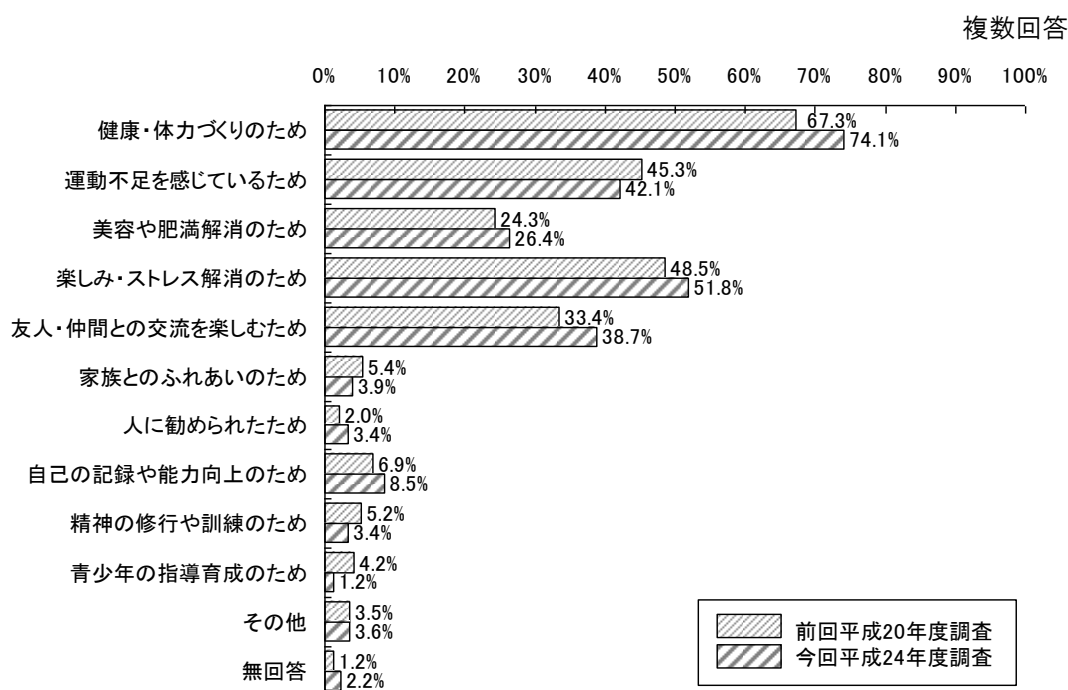
運動やスポーツの動機は健康を意識

運動やスポーツ活動を行う理由としては、「健康・体力づくりのため」が74.1%で最も多く、次いで「楽しみ・ストレス解消のため」51.8%、「運動不足を感じているため」42.1%、「友人・仲間との交流を楽しむため」38.7%、「美容や肥満解消のため」26.4%の順となっています。また、前回調査（平成20年度）に比べて、「健康・体力づくりのため」で6.8ポイント、「友人・仲間との交流を楽しむため」で5.3ポイント、「楽しみ・ストレス解消のため」で3.3ポイント、「美容や肥満解消のため」で2.1ポイント増えている一方で、「運動不足を感じているため」で3.2ポイント、「青少年の指導育成のため」で3.0ポイント減っています。

年代別にみると、全体と同様の項目が上位に挙げられている中で、「友人・仲間との交流を楽しむため」が10歳代や20歳代で3位、70歳以上で2位となっています。また、10歳代で「自己の記録や能力向上のため」、30歳代で「美容や肥満解消のため」が3位となっています。

さらに居住地区別にみても、全体と同様の項目が上位に挙げられています。

図表2-4：運動やスポーツ活動をする理由（一般）



■年代別・居住地区別における順位表

	第1位		第2位		第3位	
総数	健康・体力づくりのため	74.1	楽しみ・ストレス解消のため	51.8	運動不足を感じているため	42.1
10歳代	健康・体力づくりのため	57.9	楽しみ・ストレス解消のため	47.4	友人・仲間との交流を楽しむため 自己の記録や能力向上のため	36.8
20歳代	楽しみ・ストレス解消のため	63.2	健康・体力づくりのため	55.3	友人・仲間との交流を楽しむため	44.7
30歳代	健康・体力づくりのため	71.8	楽しみ・ストレス解消のため	53.8	美容や肥満解消のため	35.9
40歳代	健康・体力づくりのため	70.3	楽しみ・ストレス解消のため	51.4	運動不足を感じているため	43.2
50歳代	健康・体力づくりのため	86.0	楽しみ・ストレス解消のため	54.4	運動不足を感じているため	50.9
60歳代	健康・体力づくりのため	74.6	楽しみ・ストレス解消のため	52.4	運動不足を感じているため	46.8
70歳以上	健康・体力づくりのため	79.2	友人・仲間との交流を楽しむため	45.8	楽しみ・ストレス解消のため	44.8
愛宕中学校区	健康・体力づくりのため	67.7	運動不足を感じているため	50.8	楽しみ・ストレス解消のため	46.2
城南中学校区	健康・体力づくりのため	75.0	楽しみ・ストレス解消のため	57.1	友人・仲間との交流を楽しむため	50.0
長山中学校区	健康・体力づくりのため	77.3	楽しみ・ストレス解消のため	62.7	運動不足を感じているため	46.7
城西中学校区	健康・体力づくりのため	70.1	楽しみ・ストレス解消のため	53.2	運動不足を感じているため	39.0
中根台中学校区	健康・体力づくりのため	83.3	楽しみ・ストレス解消のため	45.0	友人・仲間との交流を楽しむため	40.0
城ノ内中学校区	健康・体力づくりのため	73.4	楽しみ・ストレス解消のため	46.8	運動不足を感じているため	39.2

特徴は単独のスポーツ活動

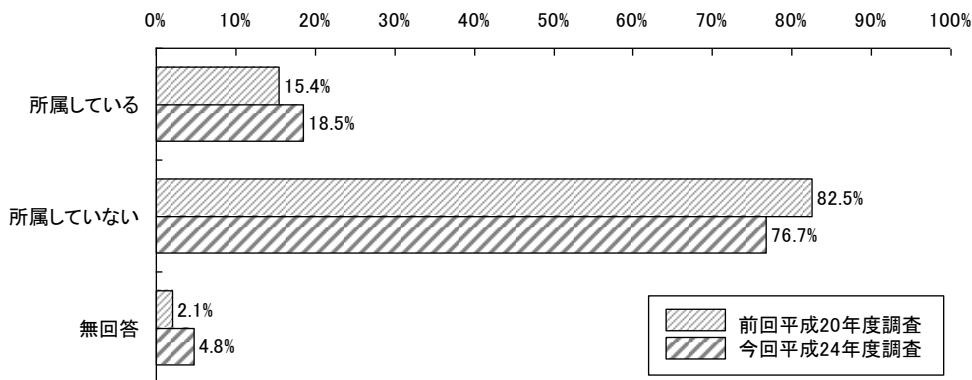
スポーツクラブやチーム等の団体へは、所属している人が 18.5%、所属していない人が 76.7%となっています。また、前回調査（平成 20 年度）に比べて、「所属している」で 3.1 ポイント増えている一方で、「所属していない」で 5.8 ポイント減っています。

年代別にみると、10 歳代でスポーツクラブやチームに所属している人が 3 割を占めているほか、30 歳代や 40 歳代で約 1 割となっています。

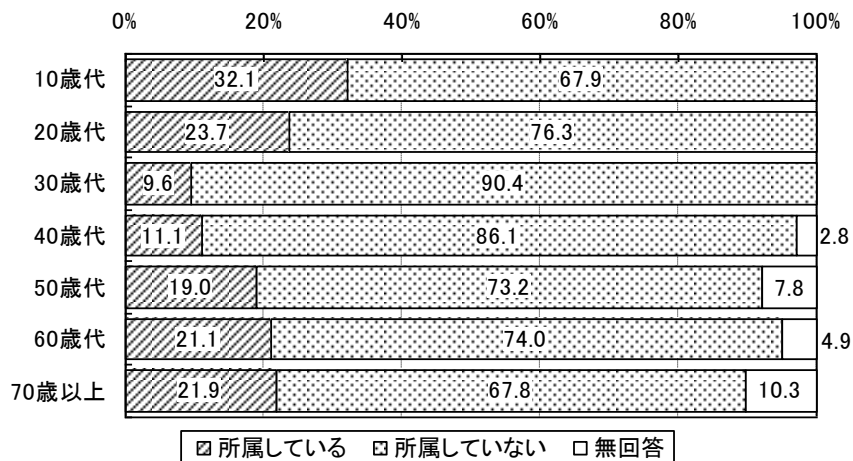
なお、実際に行っているスポーツとしては、ウォーキングが 55.0%と割合が高く、次いで体操やゴルフ、ジョギングなどが選ばれています。

このことから、スポーツクラブやチーム等へ所属するのではなく、手軽にできるウォーキングなど、単独でできるものに人気が集中していることがわかります。

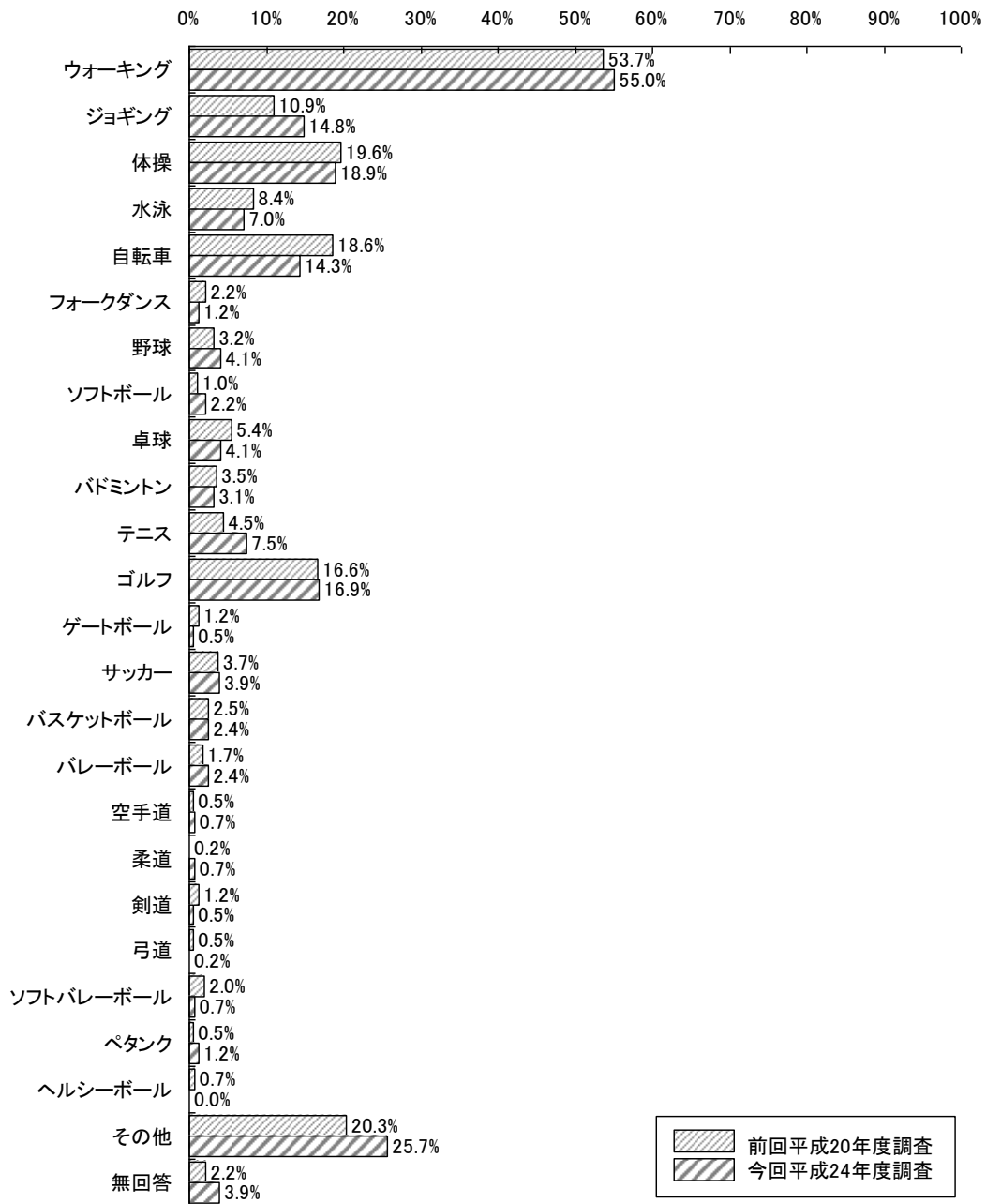
図表 2-5：スポーツクラブやチーム等への所属（一般）



■年代別のクロス集計



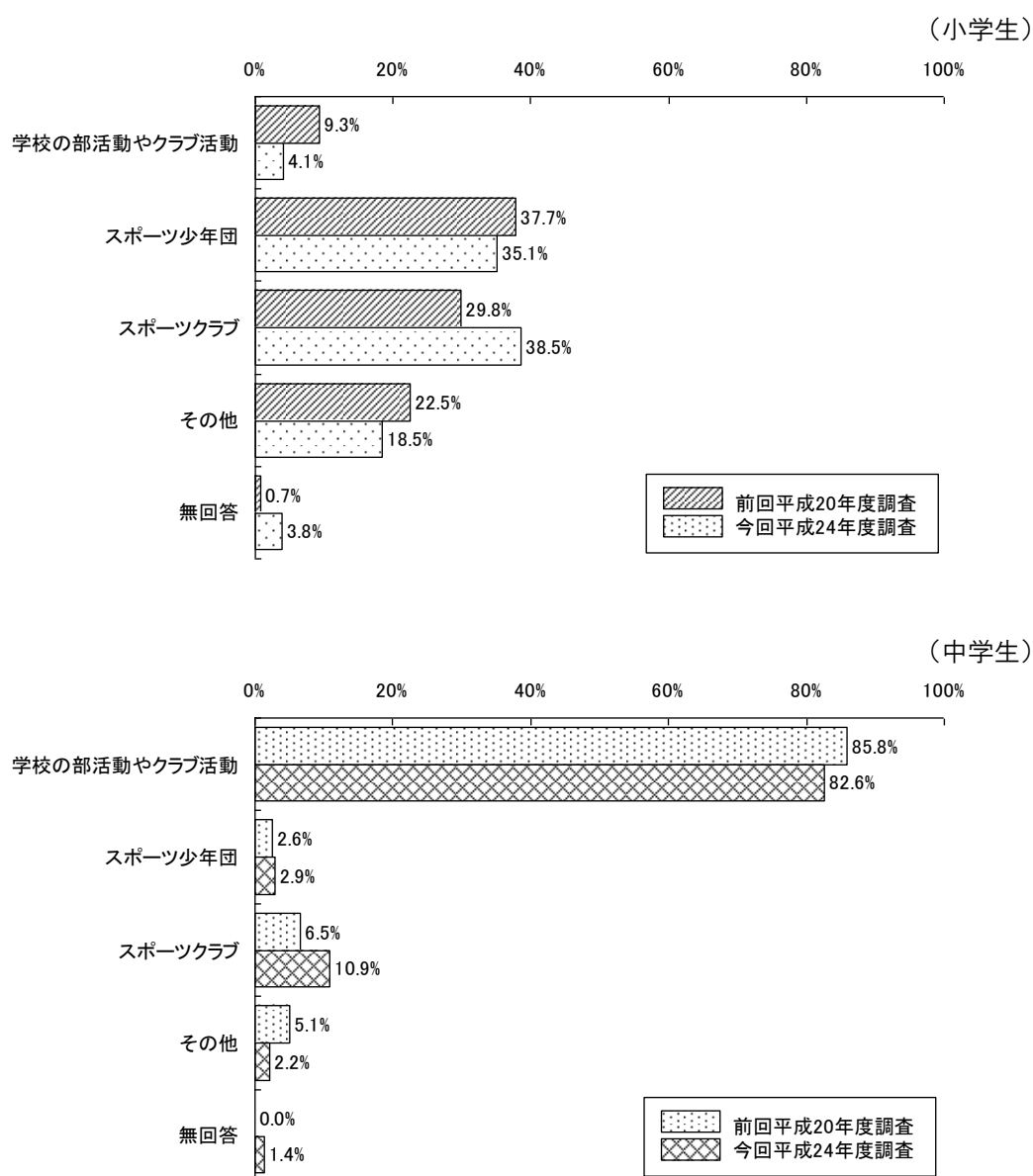
■具体的に実施している運動やスポーツ



小学生はスポーツクラブ、中学生は部活動が中心

運動やスポーツの形態については、小学生では「スポーツクラブ」が38.5%と、前回調査（平成20年度）よりも8.7ポイント増えて最も多く、次いで「スポーツ少年団」35.1%となっており、学校外の活動が中心となっています。これに対し、中学生になると「学校の部活動やクラブ活動」が82.6%と、前回調査よりも3.2ポイント減っているものの最も多く、学校の課外活動が中心となっています。

図表2-6：運動やスポーツをする形態（小中学生）



公共施設を利用したことがある割合は半数

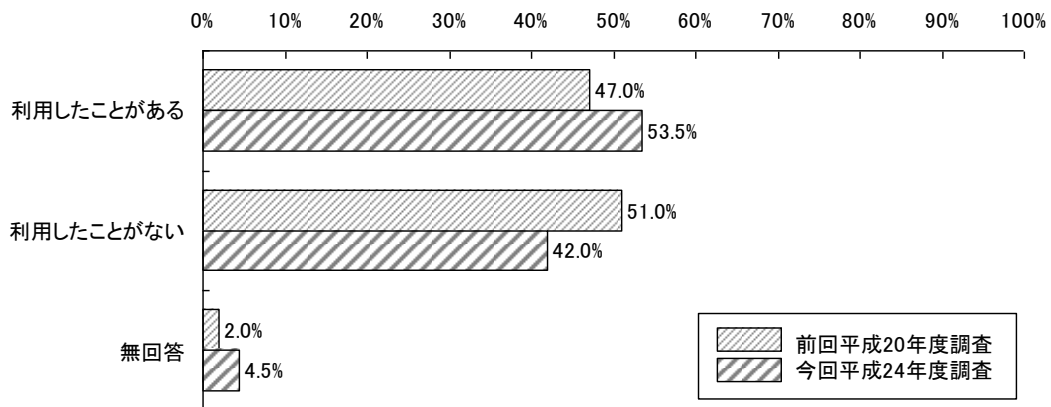
市営のスポーツ施設の利用状況では、利用したことがある人が 53.5%、利用したことがない人が 42.0%となっており、前回調査（平成 20 年度）に比べて、「利用したことがある」で 6.5 ポイント増えています。

年代別にみると、年齢層が高くなるにつれて市営のスポーツ施設を利用したことがある人の割合が低くなってきており、10 歳代では約 9 割の人に利用経験があります。

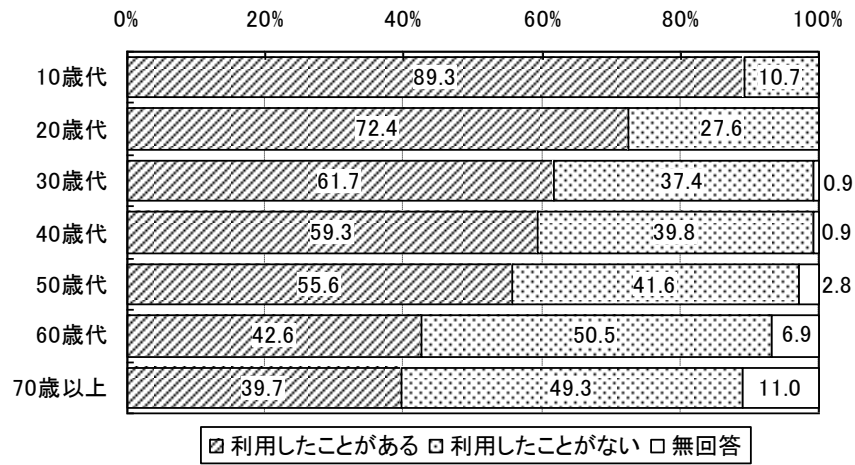
居住地区別にみると、長山や中根台、城ノ内中学校区において市営のスポーツ施設を利用したことがある人の割合が高くなっており、約 6 割を占めています。

また、前回実施したスポーツ競技団体等の意見聴取の中では、環境の整備として活動場所の確保や施設利用時間の見直し、手続きの簡素化等を望む声が聞かれました。

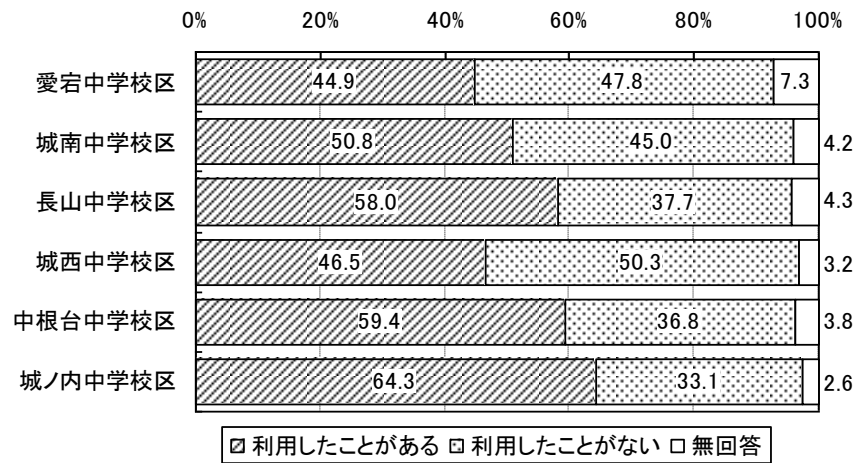
図表 2-7：市営のスポーツ施設の利用状況（一般）



■年代別のクロス集計



■居住地区別のクロス集計



身近な場所で気軽にスポーツ

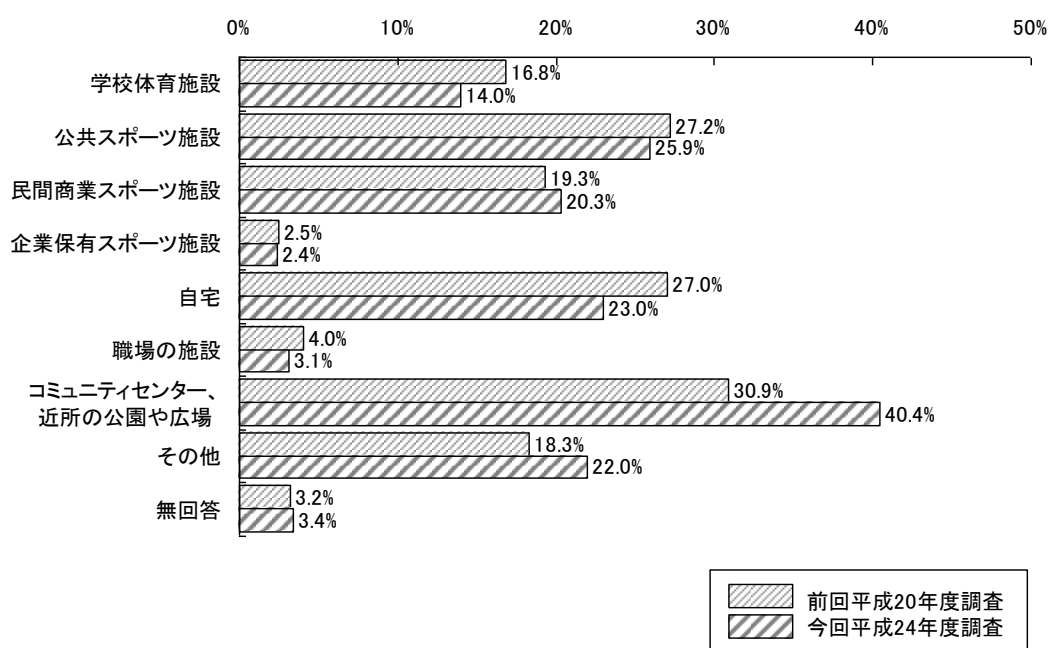
運動やスポーツ活動を行っている場所では、「コミュニティセンター（旧公民館）、近所の公園や広場」が40.4%で最も多く、次いで「公共スポーツ施設」25.9%、「自宅」23.0%、「民間商業スポーツ施設」20.3%の順となっています。また、前回調査（平成20年度）に比べて、「コミュニティセンター、近所の公園や広場」で9.5ポイント、「民間商業スポーツ施設」で1.0ポイント増えている一方で、「自宅」で4.0ポイント、「学校体育施設」で2.8ポイント、「公共スポーツ施設」で1.3ポイント減っています。

年代別に見ると、全体と同様の項目が上位に挙げられている中で、「学校体育施設」が10歳代で1位、20歳代で2位となっています。また、「民間商業スポーツ施設」が30歳代で1位、50歳代で3位となっています。

居住地区別にみると、全体と同様の項目が上位に挙げられている中で、「学校体育施設」が城ノ内中学校区で3位、「民間商業施設」が城南や長山中学校区で3位となっています。

一方、前回実施したスポーツ競技団体等の意見聴取の中では、流通経済大学のスポーツ施設や設備、人的部分のさらなる活用を望む声が聞かれました。

図表2-8：運動やスポーツ活動を行う場所（一般）



■年代別・居住地区別における順位表

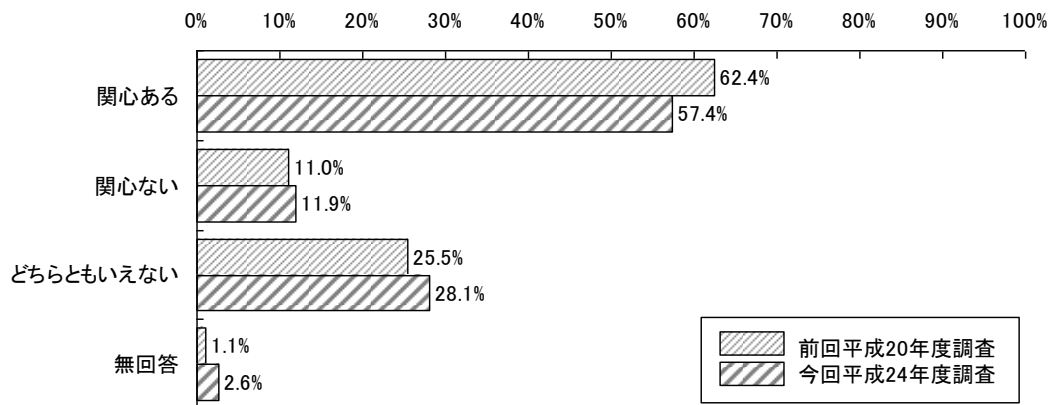
	第1位		第2位		第3位	
総数	コミュニティセンター、近所の公園や広場	40.4	公共スポーツ施設	25.9	自宅	23.0
10歳代	学校体育施設	94.7	公共スポーツ施設	31.6	その他	10.5
20歳代	コミュニティセンター、近所の公園や広場	42.1	学校体育施設	34.2	公共スポーツ施設	26.3
30歳代	民間商業スポーツ施設	41.0	コミュニティセンター、近所の公園や広場	28.2	公共スポーツ施設	15.4
40歳代	コミュニティセンター、近所の公園や広場	37.8	自宅 その他	29.7	公共スポーツ施設	27.0
50歳代	コミュニティセンター、近所の公園や広場	38.6	公共スポーツ施設	36.8	民間商業スポーツ施設	33.3
60歳代	コミュニティセンター、近所の公園や広場	45.2	公共スポーツ施設	29.4	自宅	27.0
70歳以上	コミュニティセンター、近所の公園や広場	47.9	その他	28.1	自宅	27.1
愛宕中学校区	コミュニティセンター、近所の公園や広場	35.4	自宅	32.3	公共スポーツ施設 その他	21.5
城南中学校区	コミュニティセンター、近所の公園や広場	39.3	その他	28.6	民間商業スポーツ施設	25.0
長山中学校区	コミュニティセンター、近所の公園や広場	37.3	公共スポーツ施設	33.3	民間商業スポーツ施設	29.3
城西中学校区	コミュニティセンター、近所の公園や広場	41.6	自宅	26.0	公共スポーツ施設	23.4
中根台中学校区	コミュニティセンター、近所の公園や広場	43.3	公共スポーツ施設	33.3	自宅	23.3
城ノ内中学校区	コミュニティセンター、近所の公園や広場	45.6	公共スポーツ施設	26.6	学校体育施設	22.8

スポーツの観戦が好き

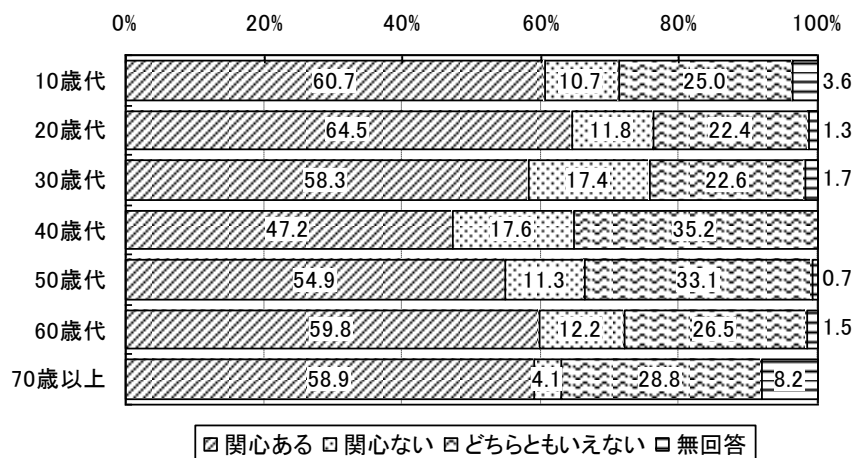
スポーツ観戦への関心については、関心のある人が57.4%、関心のない人が11.9%となっており、スポーツ観戦に高い関心を持っていることが伺われます。また、前回調査（平成20年度）に比べて、「どちらともいえない」で2.6ポイント、「関心ない」で0.9ポイント増えている一方で、「関心ある」で5.0ポイント減っています。

年代別にみると、いずれの年齢層においてもスポーツ観戦に関心のある人の割合が高く、特に10歳代や20歳代では6割を超える人が関心を示しています。

図表2-9：スポーツ観戦の関心（一般）



■年代別のクロス集計



総合型地域スポーツクラブは認知度不足

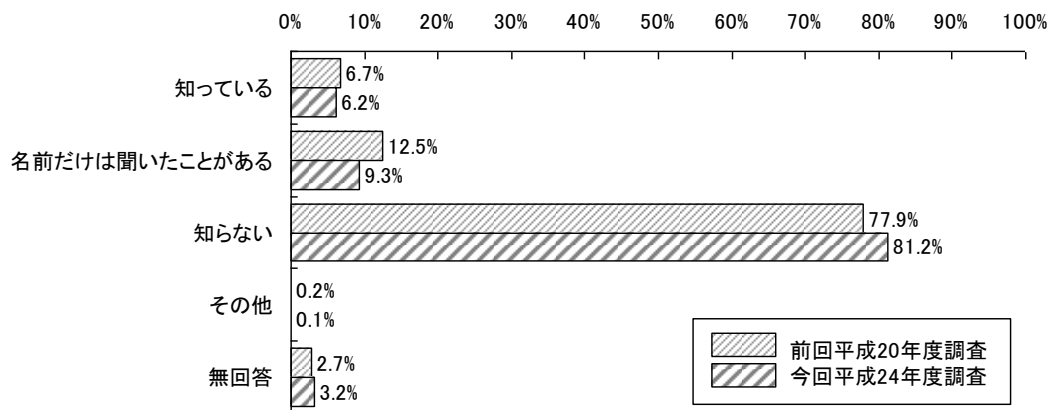
総合型地域スポーツクラブの認知では、「知っている」「名前だけは聞いたことがある」とスポーツクラブについて知っている人は15.5%となっており、知らない人が81.2%と8割を超えています。また、前回調査（平成20年度）に比べて、スポーツクラブについて知らない人が3.3ポイント増えている一方で、名前だけは聞いたことがある人が3.2ポイント、知っている人が0.5ポイント減っています。

年代別にみると、いずれの年齢層においても総合型地域スポーツクラブについて、知らない人が6割以上となっており、若い世代ほど知らない人の割合が高くなっています。

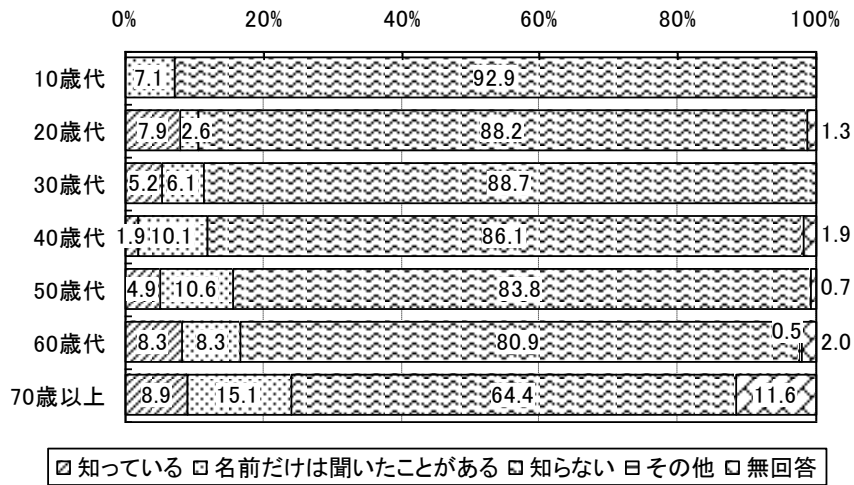
居住地区別にみると、いずれの中学校区においても総合型地域スポーツクラブについて、知らない人が7割以上の状況です。

また、前回実施したスポーツ競技団体等の意見聴取の中では、世代間交流を推進していきたいとの前向きな意見と併せ、総合型地域スポーツクラブの設立に向けた期待が寄せられていました。そのような中、市内では平成22年度に「NPO法人クラブ・ドラゴンズ」が総合型地域スポーツクラブとして活動をスタートさせている状況です。

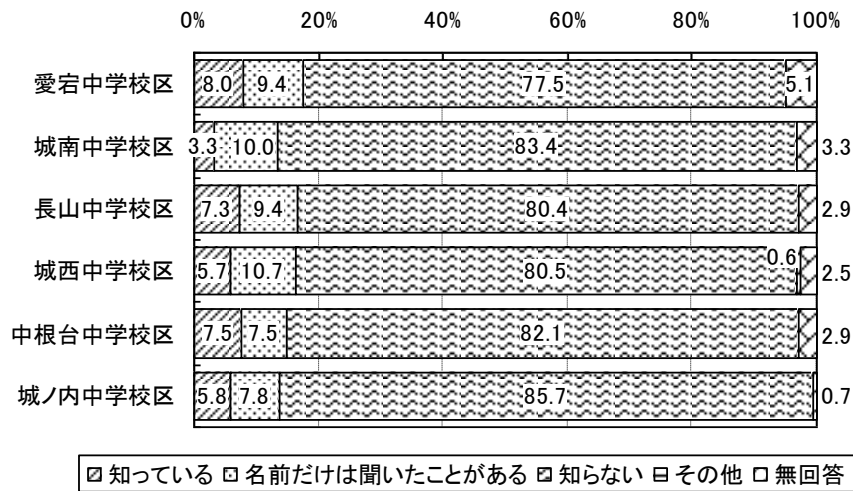
図表2-10：総合型地域スポーツクラブの認知度（一般）



■年代別のクロス集計



■居住地区別のクロス集計



ボランティアの関心が低い

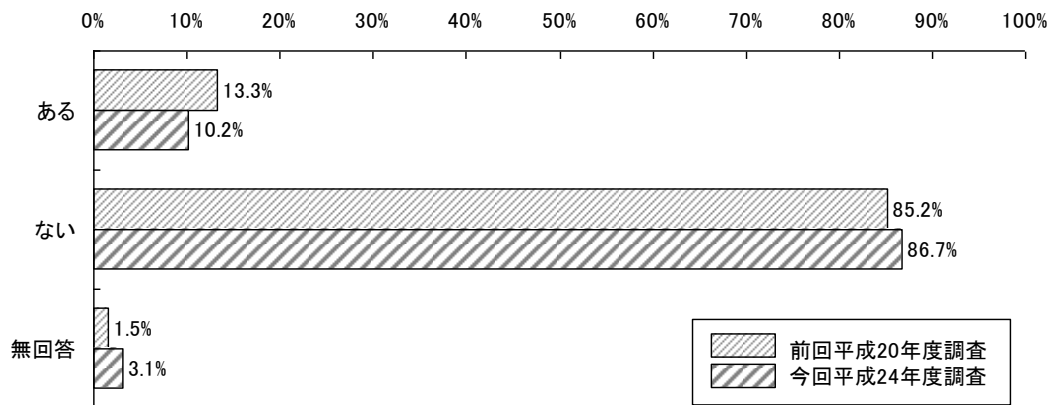
運動やスポーツ活動にかかわるボランティア活動については、経験のある人が10.2%、経験のない人が86.7%となっています。また、前回調査（平成20年度）に比べて、経験のない人で1.5ポイント増えている一方で、経験のある人で3.1ポイント減っています。

年代別にみると、いずれの年齢層においてもボランティア活動の経験のない人が8割を超えている一方で、40歳代や60歳代、70歳以上で経験のある人が他の年齢層よりも高くなっています。

居住地区別にみても、いずれの中学校区においてもボランティア活動の経験のない人が8割を超えており、特に城西や中根台中学校区では9割を超えています。

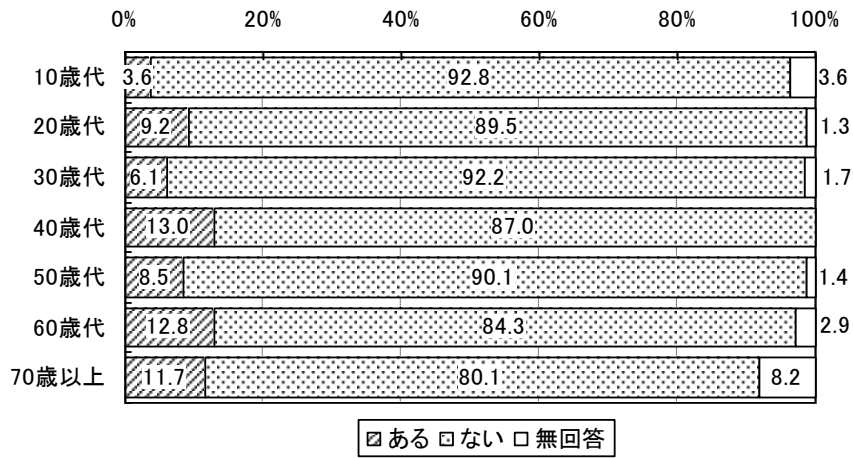
また、「今後、スポーツボランティア※¹活動をしてみたいと思いますか」の質問については、「やりたくない」と回答した人の割合が4割を超えており、スポーツ振興を担う「組織」ボランティアとしてスポーツにかかわることへの関心や意欲が低いことが伺えました。

図表2-11：運動やスポーツにかかわるボランティア活動の有無（一般）

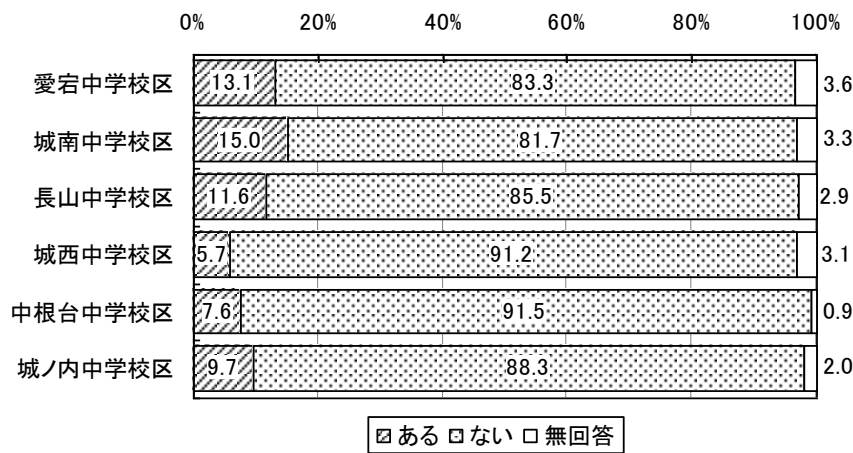


※¹ スポーツボランティア……報酬を目的とせず、地域のスポーツクラブなどの運営や指導を日常的にささえ、競技大会や地域スポーツ大会等においては、運営等を支援する人。

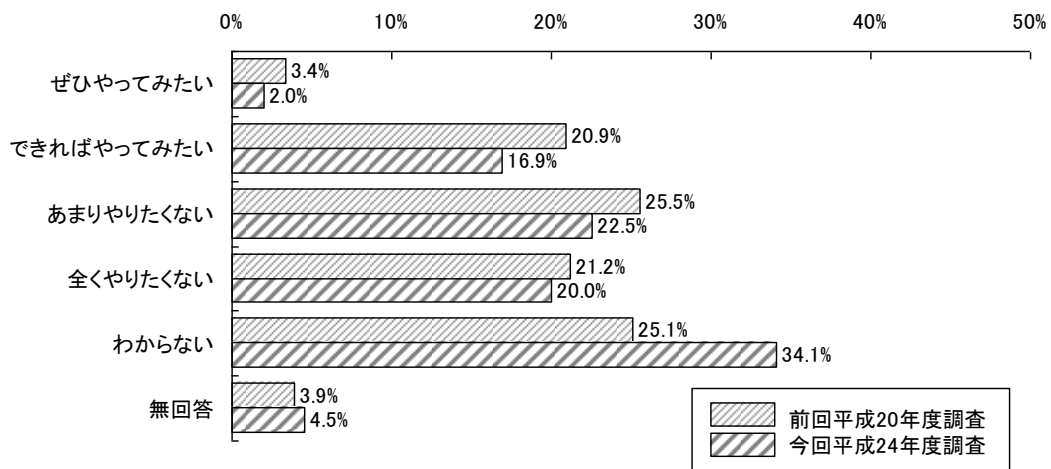
■年代別のクロス集計



■居住地区別のクロス集計



■今後のスポーツボランティア活動



情報発信の要望が高い

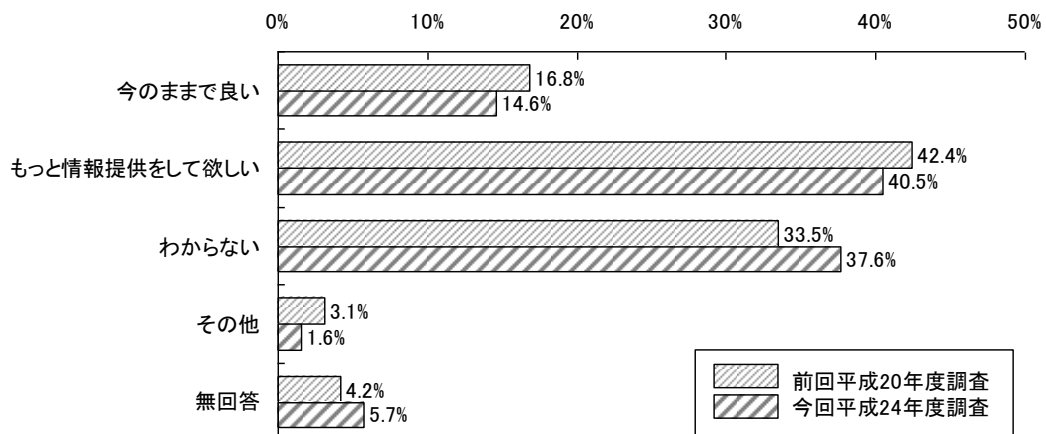
市が行っている運動やスポーツ活動に関する情報提供については、「もっと情報提供をして欲しい」が40.5%で最も多く、次いで「わからない」37.6%、「今までのままで良い」14.6%となっています。また、前回調査（平成20年度）に比べて、「わからない」で4.1ポイント増えている一方で、「今のままで良い」で2.2ポイント、「もっと情報提供をして欲しい」で1.9ポイント減っています。

年代別にみると、20歳代や30歳代では「もっと情報提供をして欲しい」が約5割を占めています。また、10歳代では「今のままで良い」とする人が2割を占めており、他の年齢層よりも高くなっています。

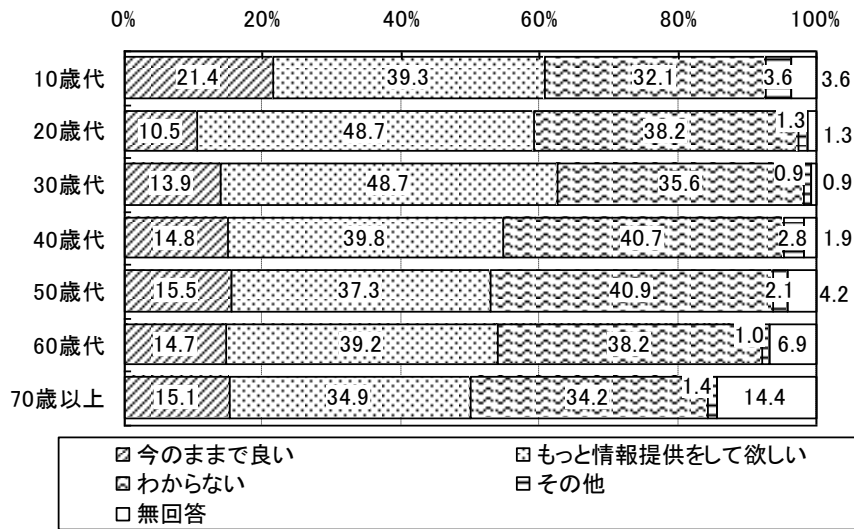
居住地区別にみると、いずれの中中学校区でも「もっと情報提供をして欲しい」とする人の割合が高くなっており、特に城南や長山、城ノ内中中学校区では4割を超えています。

また、前回実施したスポーツ競技団体等の意見聴取の中でも、各団体の活動内容や練習日・場所がわかるような情報発信ができる環境を整備してもらいたいとの要望がありました。

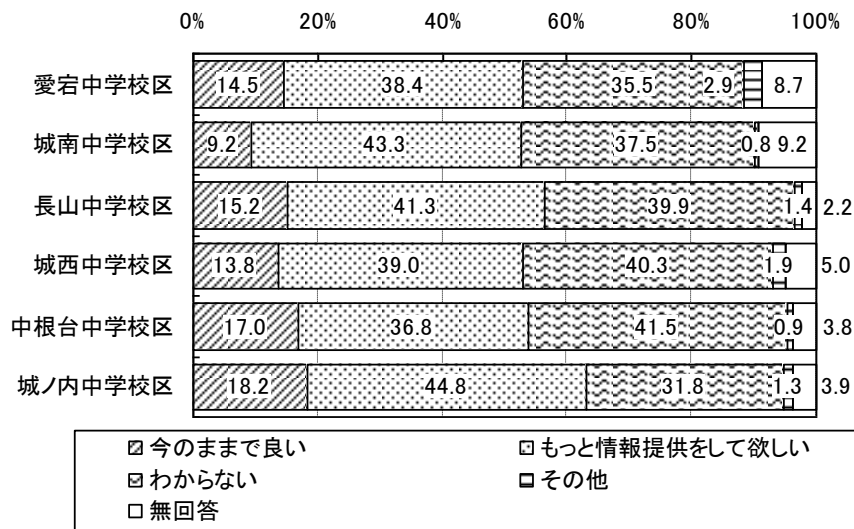
図表2-12：運動やスポーツ活動に関する情報提供（一般）



■年代別のクロス集計



■居住地区別のクロス集計



児童・生徒の体力・運動能力の現状

文部科学省では、昭和39年以来「体力・運動能力調査」を実施して、国民の体力・運動能力の現状を明らかにし、体育^{*1}・スポーツ活動の指導と行政上の基礎資料として広く活用されています。また、その間実施されていた体力テストは、平成11年度の体力・運動能力調査から導入した「新体力テスト^{*2}」という名称に変更となり、現在、8種目（握力・上体起こし・長座体前屈・反復横とび・シャトルラン・50m走・立ち幅とび・ボール投げ）で実施されています。

次の図表2-13は、測定単位が異なる調査結果を比較しやすいよう、茨城県の前年値を50とし、それと比べた本市の児童生徒の体力・運動能力の水準を表しており、図表2-14では、国・県・市における調査結果の種目別平均値について掲載しています。

図表2-13：平成24年度 体力テスト

【小学校】

上段／男子 下段／女子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	総合点
1学年	47.8	50.2	48.4	48.7	50.6	49.9	49.4	51.0	49.2
	46.5	48.6	48.2	45.8	47.7	51.2	48.2	47.7	46.6
2学年	48.3	49.7	47.7	48.4	48.3	51.0	49.6	48.1	48.0
	48.5	48.3	47.4	47.9	46.3	52.3	48.8	46.8	46.6
3学年	47.8	49.8	50.9	48.6	49.4	49.8	49.3	49.1	49.4
	47.7	50.5	51.0	48.9	48.5	49.8	50.2	47.9	49.6
4学年	48.8	51.5	50.8	49.2	50.5	49.6	50.3	48.7	50.3
	48.9	49.8	50.2	48.9	49.9	50.5	48.8	49.4	49.0
5学年	50.7	51.4	51.0	50.5	51.4	47.0	51.2	49.7	52.0
	49.6	50.5	50.4	48.1	49.3	48.3	50.4	48.0	49.7
6学年	49.4	50.5	52.5	50.2	49.5	48.8	50.7	49.1	50.8
	49.4	49.7	51.6	49.2	48.9	48.9	50.8	47.9	50.2

【中学校】

上段／男子 下段／女子	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ボール投げ	総合点
1学年	51.3	50.6	52.0	49.8	48.6	51.4	52.4	52.0	51.6
	48.9	49.1	50.1	47.7	47.9	53.6	50.0	54.3	48.6
2学年	50.5	49.6	50.8	48.1	46.6	49.6	51.2	49.4	49.5
	49.5	48.2	48.8	46.8	46.2	51.4	49.7	48.9	47.6
3学年	52.3	49.8	50.7	50.0	47.1	48.5	50.9	52.4	50.9
	50.6	50.1	51.8	47.7	46.5	52.8	48.8	48.8	48.7

^{*1} 体育……………一般的には運動やスポーツについての教育（学習）を意味する言葉で、主に学校教育で使われる用語。

^{*2} 新体力テスト……………平成11年度の体力・運動能力調査から導入した体力テスト。国民の体位の変化やスポーツ医・科学の進歩、高齢化の進展等を踏まえ、それまでの調査を全面的に見直したもの。

図表2-14：全国体力・運動能力調査結果について（公立学校）

区 分	児童・ 生徒数	握力 kg	上体 起こし 回	長座 体前屈 cm	反復 横とび 点	持久走 1500m (女子は 1000m) 秒	20m シャトル ラン 回	50m走 秒	立ち 幅とび cm	ソフト ボール 投げ m	体力 合計点
〔小学校男子（第5学年）〕											
全 国	102,864	16.70	19.44	32.60	41.58	—	51.58	9.37	152.31	23.80	54.07
茨 城 県	1,534	17.03	20.93	35.10	43.89	—	55.19	9.24	156.14	23.32	56.53 (全国2位)
龍ヶ崎市	390	17.60	22.07	35.75	45.16	—	60.20	8.95	157.76	23.57	58.92
〔小学校女子（第5学年）〕											
全 国	98,715	16.23	17.92	36.68	39.23	—	39.89	9.64	144.84	14.25	54.85
茨 城 県	1,522	16.85	19.72	39.24	41.51	—	45.16	9.51	149.34	14.96	58.22 (全国2位)
龍ヶ崎市	373	16.85	20.55	39.62	41.64	—	46.27	9.30	150.88	14.41	59.05
〔中学校男子（第2学年）〕											
全 国	101,899	29.65	27.58	43.27	51.55	391.04	86.24	8.01	195.37	21.23	42.32
茨 城 県	1,639	31.12	29.67	47.08	53.50	476.00	92.93	7.78	204.72	22.21	47.03 (全国1位)
龍ヶ崎市	380	31.36	28.63	47.21	52.00	—	83.31	7.76	205.79	21.99	45.72
〔中学校女子（第2学年）〕											
全 国	97,079	23.98	22.84	45.00	45.46	292.23	57.87	8.87	167.13	13.12	48.72
茨 城 県	1,552	25.31	24.77	49.22	47.45	369.71	64.78	8.58	175.64	13.99	54.17 (全国1位)
龍ヶ崎市	346	24.89	23.66	47.25	45.61	—	56.14	8.69	174.31	13.63	51.37

※ 持久走については、20mシャトルランとの選択で、中学校でのみ実施するが、本市においては20mシャトルランを行っている。

〔平成24年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果【概要版】より抜粋〕

第4節 国・茨城県の計画

1 国のスポーツ基本計画

平成24年3月に文部科学省は、スポーツ基本法第9条の規定に基づき、スポーツに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、「スポーツ基本計画」を策定しました。この計画は、スポーツ基本法に示された理念の実現に向け、10年間程度を見通した計画としつつ、平成24年度から概ね5年間に取り組む施策を体系化しており、わが国のスポーツ政策の具体的な方向性を示すものとして、国、地方公共団体及びスポーツ団体等の関係者が一体となって施策を推進していくための重要な指針として位置付けられています。

□□スポーツ基本計画の今後5年間に取り組むべき7つの施策□□

「学校と地域における子どものスポーツ機会の充実」

- (1) 幼児期からの子どもの体力向上方策の推進
- (2) 学校の体育に関する活動の充実
- (3) 子どもを取り巻く社会のスポーツ環境の充実

「若者のスポーツ参加機会の拡充や高齢者の体力づくり支援等ライフステージ^{※1}に応じたスポーツ活動の推進」

- (1) ライフステージに応じたスポーツ活動等の推進
- (2) スポーツにおける安全の確保

「住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備」

- (1) コミュニティの中心となる地域スポーツクラブの育成・推進
- (2) 地域のスポーツ指導者等の充実
- (3) 地域スポーツ施設の充実
- (4) 地域スポーツと企業・大学等との連携

「国際競技力の向上に向けた人材の養成やスポーツ環境の整備」

- (1) ジュニア期からトップレベルに至る戦略的支援の強化
- (2) スポーツ指導者及び審判員等の養成・研修やキャリア循環の形成
- (3) トップアスリートのための強化・研究活動等の拠点構築

^{※1} ライフステージ……人生における年代別段階のこと。国が進める「健康日本21」では、生涯を幼年期、少年期、青年期、壮年期、中年期、高年期の6段階に分けている。

「オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会等の招致・開催等を通じた国際交流・貢献の推進」

- (1) オリンピック・パラリンピック等の国際競技大会等の招致・開催等
- (2) スポーツに係る国際的な交流及び貢献の推進

「ドーピング防止やスポーツ仲裁等の推進によるスポーツ界の透明性、公平・公正性の向上」

- (1) ドーピング防止活動の推進
- (2) スポーツ団体のガバナンス^{※1}強化と透明性の向上に向けた取組の推進
- (3) スポーツ紛争^{※2}の予防及び迅速・円滑な解決に向けた取組の推進

「スポーツ界における好循環の創出に向けたトップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進」

- (1) トップスポーツと地域におけるスポーツとの連携・協働の推進
- (2) 地域スポーツと企業・大学等との連携

2 茨城県のスポーツ振興基本計画

茨城県は、国の「スポーツ振興基本計画（現・スポーツ基本計画）」に基づき、平成16年7月に、県民のスポーツ振興を総合的、かつ計画的に推進することを目的に、「茨城県スポーツ振興基本計画」を策定しました。平成21年7月にはその内容の一部が改訂され、「生きがいのある生活と活力ある生涯スポーツ社会の形成」を基本理念に様々な事業を展開しています。

□□スポーツ振興基本計画に掲げる4つの視点□□

- 地域スポーツ活動の充実
- 学校体育・スポーツ活動の充実
- 競技スポーツ^{※3}活動の充実
- 県営スポーツ施設の整備充実

※1 ガバナンス……………統治のこと。組織や社会に関与するメンバーが主体的に関与を行う、意思決定・合意形成のシステム。

※2 スポーツ紛争……………代表選手選考やドーピング規則違反による資格停止処分などを巡って発生する、スポーツに関する様々な争い。

※3 競技スポーツ……………特に勝利や大会での成績、記録や技能の向上を目指して行うスポーツ。勝利や技能の向上によって達成感や満足感を味わうことができ、スポーツが持つ魅力を感じることができる。

第5節 アンケートや団体ヒアリング等から抽出された課題

1 スポーツの環境 ―公共スポーツ施設・学校体育施設―

市内で活動する体育協会、スポーツ少年団、レクリエーション協会加盟団体から長寿会、障がい者などの団体に至るまで、幅広く聴取した意見を集約すると「活動するに当たっての会場の確保が難しい」、「部員の高齢化及び人員の減少が深刻」との意見が、前回のヒアリングにおいて寄せられています。

市営スポーツ施設利用のアンケート結果をみると、「利用したことがない」と答えた人が、前回調査（平成20年度）に比べ9.0ポイント減って42%となったものの、依然として高く、その主な理由として「一緒にする人がいない」、「利用時間が限られている」、「申込みや手続きが面倒」という回答が多くありました。さらには、「だれもが気軽にできるスポーツ施設を整備する」という声も多くありました。複数の種目に対応でき、多くの方が利用できる運営方法や施設の充実も課題の一つです。

近年では、市民スポーツ活動の広がりや新たなスポーツの団体・サークルが増えたことにより、週末を中心に、龍ヶ崎市総合体育館「たつのこアリーナ」（以下「たつのこアリーナ」という。）など市内のスポーツ施設は飽和状態になり、新たな利用が困難になっています。また、健康を意識した取り組みが実施されるようになり、市民のスポーツ活動の場はますます不足する状況が予想されます。

□□スポーツ環境の課題□□

- スポーツ施設の機能の付加や改善
- スポーツ施設の効率的な運営
- 学校・民間施設の開放
- 学校体育施設の安全性・利便性等の改善
- 学校と地域が連携した学校体育施設の維持・管理体制の構築
- 利用可能な社会資源の確保

（公園、広場やウォーキングコースなど地域空間の利用）

2 市民の健康・体力づくり活動への関心

アンケート調査の結果によると、体を動かすことやスポーツに対する関心は前回と同様に約70%にのぼり、市民の非常に高い関心度が伺えます。しかし、一方では、定期的にスポーツを実施したり、体を動かしたりする割合は、国のスポーツ基本計画で掲げた目標であるスポーツ実施率65%（従前のスポーツ振興基本計画での目標値は50%）を大きく下回る結果（43.2%）となり、仕事等により忙しい日々を送る人の割合が増えている姿が浮き彫りになりました。

スポーツを実施しない理由としては、仕事等でスポーツや運動に費やす時間がないとした人が多く、その傾向は20歳代から50歳代までの各世代で見られます。

スポーツを定期的に実施すると回答した中では、ウォーキングやジョギング、体操など個人で実施できるスポーツの割合が高く、その目的は健康維持・体力づくりのため行われているものでした。

また、「年齢にあったスポーツの開発・普及を進める」ことや「スポーツ行事・大会・教室等の充実」を求める声も高くなっています。

□□市民の健康・体力づくり活動の課題□□

- 健康・体力づくりの情報提供
- 健康・スポーツ事業の推進を図るための指導者等体制整備
- 市民一人ひとりに適したスポーツプログラムづくり
- 高齢者が気楽に利用できるスポーツ施設などの環境整備
- 市民が参加しやすいスポーツ行事の開催
- 初心者のためのスポーツ教室の充実

3 市民が取り組むスポーツ活動

活動形態をみると、スポーツを実施する際にスポーツクラブやチーム等の団体に所属している割合は約 19%で、その多くは市内のクラブや同好会などのスポーツクラブ等に所属しています。所属している理由としては、「継続して活動できる」ことや「健康・体力づくりのため」スポーツをするという割合が高く、反面、所属しないと回答した中では、「活動時間・回数が合わない」ことや「クラブの情報がない」といった理由が多くなっています。

現在のスポーツは、実際に体を動かして行う「するスポーツ」の他に、テレビを通して、また実際に競技場に足を運んで観戦する「みるスポーツ」、スポーツ指導者やスポーツボランティアなどスポーツ選手をサポートする「ささえるスポーツ」と、大別すると三つに分類されます。

「みるスポーツ」は、テレビ中継を通してのスポーツ観戦が約 86%とその割合が非常に高く、一方、実際に競技場に足を運ぶ人は約 7%という結果となっています。メディアを通じたスポーツ観戦は非常に定着しているものの、競技場でのスポーツ観戦の割合が非常に低いことがわかりました。関東大学サッカー連盟^{※1}に加盟する流通経済大学サッカー部のホームグラウンドである龍ヶ崎市陸上競技場「たつのこフィールド」（以下「たつのこフィールド」という。）や、平成 22 年 5 月にオープンした龍ヶ崎市野球場「たつのこスタジアム」（以下「たつのこスタジアム」という。）の一層の活用が期待されているところです。

「ささえるスポーツ」に関する調査では、スポーツボランティア活動を経験された人は全体の約 10%という結果になっており、指導者やボランティアを多方面から養成・確保するとともに、指導者の活性化が求められるところです。

□□市民が取り組むスポーツ活動の課題□□

- ウォーキング、サイクリング、ジョギング等、多目的なスポーツ機能の改善・整備
- だれでも参加できる総合型地域スポーツクラブの創設
- 地域におけるスポーツサークル・団体の育成・支援
- スポーツボランティアの育成

^{※1} 関東大学サッカー連盟……関東地区の 1 都 7 県に所在する大学サッカー部の中で、上位チームで構成された競技運営団体のこと。全日本大学サッカー連盟に所属する関東地区連盟に当たる。

4 競技スポーツ活動

競技スポーツの点では、平成14年8月にたつのこアリーナを会場として全国高等学校総合体育大会・ボクシング競技が開催されました。そして、平成31年には国民体育大会（茨城国体）・柔道競技が開催される予定です。また、たつのこフィールドでは、関東大学サッカーリーグ戦^{※1}やK S L^{※2}（関東サッカーリーグ）などが開催されており、たつのこスタジアムでは、流通経済大学野球部が加盟している東京新大学野球連盟のリーグ戦をはじめとした、各種公式戦が開催されています。このように、全国的な規模でのトップレベルの大会が開催できる環境整備も進んでいます。

競技スポーツを振興する上では、指導者の指導力向上や関連する団体の連携強化が必要ですが、さらに総合運動公園を中心に高いレベルのスポーツイベントの開催や招致を推進することも必要です。

また、競技スポーツには、トップアスリートを目指す人もいれば、愛好者や高齢者もいます。幅広い視点での指導体制の確立や競技種目の拡充等の対策も講じる必要があります。

アンケート結果によると、スポーツクラブ等に所属している市民は約19%で、多くの方は個人で活動していることが伺えます。また、その理由として「活動の時間・回数が合わない」、「クラブの情報がない」、「個人で活動をしたい」という回答が多くありました。このように、クラブ等の情報提供とともに、幅広い活動に対応できる環境整備も課題です。

□□競技スポーツの課題□□

- 国内外の競技大会、高度レベルの競技大会等の開催
- 市内及び近隣市等との競技スポーツ交流機会の拡充
- 優れた競技者の技術、競技力向上の支援及び仕組みの充実
- 優れたスポーツ指導者の養成・確保
- グラウンド等スポーツ施設の整備、夜間照明等付加施設の整備

※1 関東大学サッカーリーグ戦……関東大学サッカー連盟に加盟する大学サッカー部によるリーグ戦。

※2 K S L ……………Kanto Soccer League の略称。関東サッカーリーグは、日本サッカー協会に加盟登録（第1種）、全国社会人サッカー連盟に所属する、関東1都7県で活躍するクラブチームが参加して行われるサッカーリーグのこと。1967年に関東社会人サッカーリーグとして創設され、2000年に現在の名称に改称。

5 小中学生のスポーツ活動

小中学生の体力については、小中学生を対象に毎年行われている体力テストの結果が出ています。平成24年度においては、茨城県の平均値と比較した場合、「長座体前屈（柔軟性）」で男女共に優れた結果となっています。また、総合点でみた場合は、小学6年生が男女共に平均値を上回っていることがわかります。全体としては、「反復横とび（敏捷性）」や「シャトルラン（全身持久力）」、「ボール投げ（投能力・巧心性・瞬発力）」といった種目を苦手としている特徴が浮き彫りとなりました。[図表2-13 参照]

小学生へのアンケートでは、学校体育の授業以外に運動・スポーツをしている児童は約78%であり、スポーツ少年団やスポーツクラブに加入している割合が高い結果となっています。種目については、サッカーや水泳、野球、バスケットボールが特に高い傾向ですが、スポーツをしていない児童は、「やりたいスポーツを教えてくれるところがない」、「近くに施設などがないから」という回答もあり課題も伺えたところです。

中学生のアンケートでは、学校の部活動やクラブ活動での運動が約83%を占めており、種目ではテニス、サッカー、バスケットボール、野球が比較的高い割合を占める結果となっています。一方で「運動やスポーツをしていない」と回答した生徒は約23%であり、その理由としては「特に理由はない」、「スポーツが苦手だから」、「遊ぶ方が好きだから」という割合が高く、小学生と同様に「やりたいスポーツを教えてくれるところがないから」、「近くに施設などがないから」という回答もありました。

多様なスポーツニーズに対応したり、小中学生が気軽にできるスポーツ環境等も充実させていく必要があります。

□□小中学生のスポーツの課題□□

- 小中学生の多様なスポーツニーズに対応する地域との連携
- 中学校の部活動への外部指導者^{※1}の導入
- だれでも参加できる総合型地域スポーツクラブの創設

^{※1} 部活動への外部指導者……学校の運動部活動の実技指導を目的として、学校外から派遣されるスポーツ指導者。

6 行政サービスの課題

市のスポーツに関する情報は、広報紙やホームページをはじめ、施設紹介のリーフレットなどにより市民に提供してきました。

しかし、前回のヒアリングにおいて体育協会やスポーツ少年団などの様々な団体から意見聴取した結果では「幅広いスポーツ関連情報が入手できる環境が必要」との意見が寄せられています。アンケート結果でも「もっと情報を提供して欲しい」という回答が約41%と多く、様々な情報を欲していることがわかりました。市民が望むスポーツ情報は、施設・設備等の詳しい情報やスポーツ教室の情報などです。

また、インターネットの普及により、社会・経済・生活のあらゆる場面で情報化が進んでいるものの、スポーツ指導者、ボランティア、団体・サークルの活動状況の情報はまだまだ少なく、市民には満足いく形で提供されていないのが実情です。市民がスポーツ活動に自主的に参加できるよう、情報が簡単に得られる仕組みづくりが求められています。

情報提供については、行政が中心に行っていることから、健康や体力づくりなどの情報と併せて、スポーツ関連情報の提供を充実することが大きな課題です。

市では公共スポーツ施設の提供とともに、スポーツ活動への参加促進を図る取り組みとして、スポーツ教室やスポーツイベントを実施しています。行政が中心となり、関連団体等との連携により一定の成果をあげていますが、すべての市民が参加できる取り組みにはなっていないのが現状です。初心者に対する教室の充実や市民が活動に参加しやすいプログラム提供などが求められています。

また、スポーツ推進委員が市民スポーツ活動の支援を担うスポーツ指導者として活躍しており、今後もスポーツ推進のため、より一層幅広い活動が求められています。現在は、市民がスポーツを楽しむ意識の浸透を目的にニュースポーツ^{※1}の普及を中心に活動していますが、幅広い年齢層や種目に対応していくためには、高度な知識や指導力を備えた地域スポーツをささえる新たなスポーツリーダーや指導者の人材育成が必要となっています。

□□行政サービスの課題□□

【情報提供について】

- スポーツ情報の充実（集約した情報を市民に提供）
- 団体・サークルの活動状況等の情報提供
- スポーツ・イベント情報のリアルタイムな提供
- スポーツ教室等の提供
- 初心者向けスポーツ教室等の充実
- 高齢者向けスポーツメニュー、プログラムの提供

^{※1} ニュースポーツ………体力、技術、性別、年齢に左右されず、誰もが手軽に楽しめ、ルールに弾力性を持たせるなど、近年、考案された比較的新しいスポーツ種目の総称。

○健康福祉事業との連携

【指導者の育成】

○スポーツボランティアの育成

○地域スポーツリーダー^{※1}の育成

○競技スポーツから健康など目的に応じた指導者の養成・確保

○高齢者、障がい者の指導者養成・確保

^{※1} 地域スポーツリーダー……主に居住地域での各競技種目や地域スポーツ行事の指導・運営を行う者。